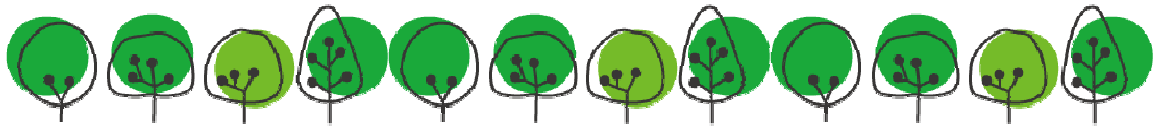




平成24年度

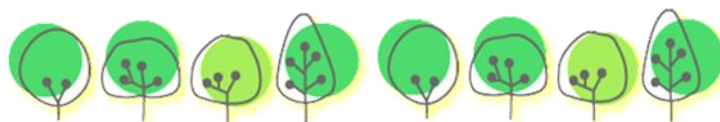
# 十七字のふれあい事業

～ふみ出そう 新たな明日へ つづく道～



主催 福島県教育委員会

## 最優秀賞



平泳ぎ お父さんまで あと3秒  
(塩見 颯己・二本松市立安達太良小学校5年)

本気出し 勝った翌日 筋肉痛  
(塩見 友彦) <子と父>

ねむくなる ぼかぼかママの うでまくら  
(武田 花菜・須賀川市立第三小学校2年)

ほっとする むすめのねがお うでのなか  
(武田 貴子) <子と母>

母さんの えがお見たくて フロそうじ  
(鈴木 大晴・田村市立菅谷小学校3年)

走り寄る 息子の頭に 泡ひとつ  
(鈴木 未佐子) <子と母>

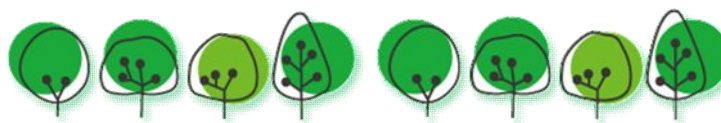
はやおきし ばあちゃんといく カブトとり  
(富永 尋斗・中島村立滑津小学校1年)

カブトとり 笑顔見たさに 下調べ  
(富永 ハツエ) <孫と祖母>

小さな手 ふえた家族に 皆笑顔  
(西野 亜由未)

おじさんと 言われる僕は 十五歳  
(西野 綾・矢吹町立矢吹中学校3年) <義姉と弟>

## 優秀賞



夏休み 早く花さけ ホウセンカ  
(渡邊 拓海・棚倉町立棚倉小学校3年)

枯れるなよ かげで水やり いのる母  
(渡邊 輝美) <子と母>

夕ぐれに 影を使って せいくらべ  
(大内 鈴音・南会津町立檜沢小学校6年)

子の成長 歩幅で気づく 散歩道  
(大内 進矢) <子と父>

祖母の家 行けば私は お姫様  
(三浦 ののか・白河市立白河第二中学校1年)

私もよ 昔はそこの お嬢様  
(三浦 ひとみ) <子と母>

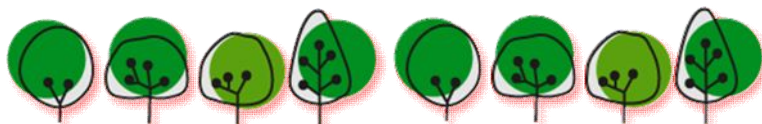
ばあちゃんの さみしさまぎらす 野菜たち  
(鳴海 佑斗・大熊町立大熊中学校1年)

笑顔出る ひ孫と一緒にの 土いじり  
(高木 厚子) <曾孫と曾祖母>

ぐったりと つかれた母の かたをもむ  
(目黒 勇也・福島県立新地高等学校1年)

息子の手 かたも心も もみほぐれ  
(目黒 文江) <子と母>

# 佳作



まみてて じょうずにできた やさいきり ふぞろいの 野菜を見ては 美味さ倍  
(渡辺 詩織・とうわこども園) (渡辺 仁美) <子と母>

まあだよ ぜったいばばには みつからない どこにいる みつけているのに みないふり  
(小山 雄聖・天栄村立湯本小学校1年) (小山 智也) <子と父>

おじいちゃん おしてあげるよ くるまいす ありがとう 孫の手かりて プチ散歩  
(市川 響己・白河市立表郷小学校1年) (市川 利一) <孫と祖父>

お母さん おぶって走った 親子レク おぶってと だだをこねた日 なつかしい  
(東海林 大輝・西郷村立小田倉小学校6年) (東海林 玲子) <子と母>

ぬいぐるみ 母とならんで ぬい合わせ 娘へと 想いと共に 針運ぶ  
(大竹 さくら・矢吹町立善郷小学校5年) (大竹 康佳) <子と母>

読み聞かせ 母さんの声 心地いい 読む声に 豊かに育て 願い込め  
(山内 優輝・喜多方市立豊川小学校3年) (山内 眞理) <子と母>

夏の夜 小ささ気づく 祖母の肩 肩をもむ 孫の力に たくましさ  
(齋藤 敏貴・二本松市立安達中学校2年) (齋藤 力子) <孫と祖母>

まだ勝てぬ 気合いと笑いの 腕相撲 まだ負けぬ 右腕震わす 母の意地  
(青田 雅生・相馬市立中村第一中学校1年) (青田 美紀) <子と母>

夜の月 大きな光が 町照らす 故里へ つながる空の 月<sup>かな</sup>美し  
(阿部 朱也香・大熊町立大熊中学校1年) (阿部 良枝) <子と母>

母の手に 体をまかせ ゆかた着る パソコンの 画面見ながら 初着付け  
(小野 ほのか・いわき市立好間中学校2年) (小野 由美子) <子と母>

## [審査員]

清野 要 (元公立学校長)  
山内 正之 (教育庁教育総務課)  
増子 春夫 (教育庁義務教育課)



## 審査員講評

今年度も、36,000組、72,000点を越えるたくさんの作品が寄せられました。

思わずじっくりしてしまうような作者の心の優しさを感じる作品、家族での取り組みや自己への挑戦の作品などが多く、心身共に大きく成長しようとしている子どもたちの熱気を感じ、とても感激しました。

審査は、五・七・五の十七文字で構成されているか、実際の体験に基づいているか、相手の作品と互いに繋がっているか、情景が思い浮かぶか、光る言葉が使われているかななどを基準に行いました。

子どもたちは、実際の体験をしているときの気持ちを表現し、そして、その父が、母が、家族が、子どもたちのそうした心をしっかり受け止め、よりよい成長をさらに期待している表現が多かったのが、特徴的でした。

子どもたちが、その実体験をわずか十七文字に表現することは、その思考を深め、その幅を広げます。そして、それは、何気ない日常の動き、自然の変化、友だちや家族の心、社会の動きなどに敏感に反応することになるのです。ものごとに敏感に反応できるということは、思いやり、優しさ、相手に対する厳しさ等々が育つことであり、豊かな心が育つことに繋がります。

さらに、大人が、子どもの成長を期待し、その思いを言葉に託しています。大人自身も互いに関わる体験を通して子どもたちを見守り、よりよい成長を促しています。たった一語の光る言葉に大人の子を思う気持ちが表現され、その絆の深まりを感じました。

これからも、子どもたちの健やかな成長のために、各家庭で子どもと大人と一緒に様々な体験を行うことを願って講評いたします。

〔審査員長 清野 要〕

## 平成24年度「十七字のふれあい事業」

### 入賞作品集



ふくしまから  
はじめよう。

発行 福島県教育委員会

問合せ先 福島県教育庁社会教育課

〒960-8688 福島市杉妻町2-16

電話：024-521-7799

FAX：024-521-7974

ホームページアドレス

：<http://www.syakai.fks.ed.jp/>

発行日 平成25年1月19日